

物価上昇が上海市民に与える影響について

上海駐在員事務所
秘書 王一

2007 年は中国旧暦の“豚年”に当たり、特に今回は60年に1度の好運の“金豚年”と呼ばれています。しかし、“金豚年”年初の豚肉価格の上昇から始まった物価の上昇は、年末頃には市民生活に大きな不安を与える問題に発展しました。今回は、この物価上昇が上海市民の生活にどんな影響を与えているのかをレポート致します。



上海の代表的な家庭料理「卵とトマトの炒め物」
我が家の食卓にも影響が・・・

市民生活に大きく影響を及ぼしているものの 1 つに副食品価格の上昇があります。筆者が上海市東新市場で行った調査によると、①豚肉は年初の 12 元 (500g) から 11 月には 19 元、②卵は 3.5 元から 4.5 元、③ピーマンは 3 元から 3.5 元とそれぞれ価格が上昇していました。この数字は、上海市發展改革委員会が公表したデータ (豚肉 50% 増、卵 27% 増、野菜 13% 増) とほぼ一致しています。上海市民の食費に関する正確な統計数字は明らかではありませんが、毎月の食費が 2,000 元の家計では、この 1 年間で毎月の出費が 500～800 元程度増加したことになります。最近、職場近くのラーメン店においても平均で 3～5 元の値上げが行われました。外食産業においても急速な物価上昇に伴い、そろそろ価格に転嫁せざるを得ない状況となってきているようです。

中国青年新聞の調査によると、物価の上昇が市民生活に影響を与えていると実感している人の割合が 94.2% に達したと報道しています。特に、低収入家庭と、退職金のみで生計を立てている高齢者にとっては厳しい環境となっています。上海市政府は 10 月から低収入家庭の補助金を上げるなどの対策を取っていますが、補助金の増加だけでは限界があると認識しているようです。

物価上昇に対する対策として、中央銀行である中国人民銀行は 2007 年に 5 回の利上げを実施しました。(2007 年 11 月末現在) その結果、住宅ローンの金利についても 1% 前後上昇し、ローンを抱える人たちはさらに負担が増える状況となっています。

食品価格の上昇については、経済の急速な発展や高病原性 PRRS (豚生殖器・呼吸器症候群) の蔓延に伴う豚肉の供給不足が原因であり、全面的なインフレに繋がるものではないとの見方もあるようです。いずれにせよ、インフレは私たちの市民生活に影響をもたらす大きな問題です。今後の中国政府指導部の政策に大きく期待したいものです。